

令和4年度大雪山国立公園連絡協議会総会議事録

■日 時：令和4年5月13日（金）14：00～16：00

■会 場：上川町役場大会議室

■出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち、上川総合振興局保健環境生活部環境生活課井上香織課長、中島海斗氏 web 出席で追加、新得町が欠席）

■概 要

1. 開会

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

大雪山国立公園連絡協議会の運営へのご協力・支援に対し御礼申し上げる。

本協議会は、2020年6月の総会場で、民間事業者等を含めたより多様な主体が協働する総合型協議会へと改組され、まもなく2年を迎えるところ。その間、「大雪山国立公園ビジョン」が策定され、そのビジョンをもとに、大雪山国立公園管理運営計画（案）及び協力金取組方針（案）の検討が進められてきた。同時に、本協議会のもと、表大雪地域、東大雪地域の「登山道維持管理部会」が設けられ、登山道荒廃の課題解決に向け、今後の登山道管理の体制づくりに関する議論が進められているところである。その中で、昨年度においては、再整備された白雲岳避難小屋を拠点に、協力金の新たな取組が開始された。多くの登山者に賛同をいただき、順調なスタートを切れたことは大変喜ばしいことだが、今後も取組を継続し、大雪山にふさわしい協働の仕組みとして定着させていくことが重要である。

今年度以降も、本協議会体制をもとに、それぞれの取組や事業を進めるとともに、幅広い多くの主体が連携、協力することで相乗効果を発揮できるよう、取組を支援していければと考える。引き続き、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いしたい。

2. 議事

(1) 審議事項

- 1) 令和3年度事業報告について
- 2) 令和3年度会計報告について
- 3) 令和3年度会計監査について

以上、1)及び2)について、事務局より資料に基づき説明、事務局案のとおり承認された。また、3)について監査鹿追町長の代理の商工観光課より監査報告が行われた。主な質疑応答は以下のとおり。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 最近どの会議に出てもだが、この会議も、120万の予算を組んで、翌年に110万も

繰り越している。令和4年度はどんな予算を組むのかと言うときに、本来なら全員が賛成なら別だが、10市町村に「繰越金は来年度に繰越して良いか」という決を取らないのは、おかしな話。事務局にお任せして「次年度に繰越します」という文言だけで、対する町村が「使わなかったら返してください」という意見が出ないから良いようなものだが、本来ならそういう形にしなければならない。したがって、座長である佐藤町長はこの繰越金は次年度に繰越して良いですか、と会場に聞くのが鉄則だと考えるが、いかがか？

■事務局

- ・ 貴重な意見ありがとうございます。120万近く繰越される形になるが、その理由についてご説明する。先ほどご説明した令和3年度はコロナの蔓延により協力金フォーラムが開催できず、令和4年度に延期になったことに加え、これから予算案の中でもご説明するが、情報発信のためのスマートフォン対応のプラットフォーム整備、また、大連協として国立公園をPRするものが何もないためそういうポスターを作成したり、協力金の取組の周知をするためパンフレットを印刷したり等、新規事業が控えているため、この繰越額となっている。ご理解いただきたい。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 承知した。

-4) 令和4年度事業計画について

-5) 令和4年度事業予算について

以上、4)及び5)について、事務局より資料に基づき説明、事務局案のとおり承認された。主な質疑応答は以下のとおり。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 前年度の予算で、予備費が50万もついている。予算を作るときに、3分の1が予備費はないだろう。今年の予算計画は、新たな事業としてスマートフォンプラットフォーム構築に40万円が計上されているが、具体的になぜ40万円なのか。大体、予算を組むときに、3分の1が予備費なんて間違い。令和3年度に予算を付けていたフォーラムも全く手を付けておらず、決算は0円。それを平然と新年度予算に乗せてくるのはどういう心境か。一番負担金が多いのは上川町だが、これを議会で追及されたらどうなるか。きちんと予算を組んだら、何のための予算なのか、それをどのように執行したのか、そういったことはこの総会の中で明らかにすべき。そうでないと、形骸化された総会でしかない。どんどん参加者も少なくなってくる。大雪山国立公園をどのように有効利用するか大きな課題である。それをきちんと議論するべく提案をしていただきたい。今ここで修正を求めているわけではない。令和

4年度の結果として、どういう結果が出てくるのか。きちんと管理をしていきたい。あくまでも参考意見として聞いてもらいたい。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・ 確かに通常の組織における運営費自体で、これだけの比率を占める予備費はあまりないケースかもしれない。丁寧な予算の組み方と分析をしっかりとしながら、今後も予算については考慮しながらやっていくご理解をいただきたい。確かに浜辺さんの仰ることは正論かと私も感じる。
- ・ 先ほど、浜辺さんが「繰越金を繰越して良いか会長から総会に諮って決める」というご意見だが、決算の内容を見て、繰越金については次年度に繰越すと資料に記載されており、そのこともこの総会で含めて承認を取っている。そのため、このままで良いと思う。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ そういう考え方もあるが、意見としては、繰越すときは繰越して良いかを会場に諮らないとダメだと思う。財政が逼迫しているところもある。もう少しシビアに言う、「使わなかったなら返してください」という意見が出たとき、どうするのか。そういう手順が必要ではないか。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・ 次年度の事業計画をどう組むか、予算をどう考えているか、その判断を元に繰越金をどうするかは、場合によっては、「一回使わなかった分を戻してくれ」ということもあり得るかも知れないが、資料1-2に「1,115,959円は次年度へ繰越す」と記載しており、そのことについての承認を求めているため、ご理解いただきたい。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 承知した。

-6) 大雪山国立公園管理運営計画検討作業部会の開催結果について

-7) 大雪山国立公園における協力金等検討作業部会の開催結果等について

-8) 大雪山国立公園山岳トイレ検討作業部会の設置について

-9) 大雪山国立公園連絡協議会規約の改正について

以上、6)及び7)、8)、9)について、事務局より資料に基づき説明。主な質疑応答は以下のとおり。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・ 先ほどの審議の中の資料1-8大雪山国立公園山岳トイレ検討作業部会（以下「ト

イレ部会」という。)の設置について意見を述べさせてもらいたい。資料には部会名簿が添付されており、下部に「登山道維持管理部会構成員のうち参加希望者」と記載がされている。今回、総会の前にこのトイレ部会へ参加するかの問い合わせがあり、現段階では既にどの構成員・オブザーバーがトイレ部会に入るのか明らかになっていると思う。事務局の作業量の問題もあるし、お忙しいとは思いますが、現在の大連協メンバーの中で何人くらいが参加・不参加を希望されているかご紹介いただくことが可能か。分かっていたらお知らせいただきたい。

■事務局

- ・ 未回答の団体もあり、現段階ではどの団体が参加で、どの団体が不参加か整理しきれず申し訳ない。とりまとめ次第、お知らせする。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・ この場では具体的な名前の特定はできていないが、参加希望という形で事務局に既に返事がある団体については、その団体は参加ということで、承認をするという扱いで良いか？

■事務局

- ・ 今回の総会用の資料の体裁については、これまでの協力金や管理運営計画の作業部会のとおりと同じ体裁の整理をしており、トイレ部会については、基本的には大連協構成員等の中で、希望をされた方は具体的にお名前を書くようにしている。トイレ部会については、都度希望者を照会し出席いただく整理になっていたため、中には未回答の方がいらっしゃり、この場では100%完成した名簿とはなっていないが、作業部会の設置案と現時点での名簿案をもって作業部会の設置をご承認いただければと思う。作業部会の具体的な開催の時に都度メンバーを確定して開催する、という考えでいた。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・ 承知した。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 山のトイレを考える会の方からも質問があったが、資料1-6管理運営計画検討作業部会の裏面に作業部会名簿があり、参加団体が26団体、不参加の団体が10団体記載されている。10団体も協力しないで済むのであれば、なかなか協力も得られないのではという懸念がある。

■事務局

- ・ 資料 1-6 の名簿は管理運営計画の作業部会が開催をされたときの資料ではなく、令和 2 年度に作業部会を設置したときのメンバーとして参考に添付している。設置時にこれらの団体が不参加ということでスタートしたわけではなく、令和 2 年度設置時の名簿であり、意味合いが違うことをご理解いただきたい。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 今の説明では理解できないが、タイムラグがあるのかわからないが、作業部会名簿として配った中で、合計 36 団体の中で不参加が 10 団体いて、不参加でも平気だと認めてしまうと、参加する人がほとんどいなくなってしまうのでは、ということ懸念している。これからもそういう形で進めていくとなると将来が不安になる。

■事務局

- ・ 大連協という官民あわせた総合型協議会の中で、個別の作業部会に参加されるかどうかは構成員のご意志による部分がある。管理運営計画の作業部会が立ち上がって部会が開かれるときに積極的に意見を言いたい方は参加、専門性や関わる接点が違う方の中には不参加となるのは仕方がないこと。強制的に全ての皆様を作業部会に入っていたらと言うよりは、ある程度ご意志を尊重しつつ、それでもより多くの幅広い団体の皆様に入っていたきたい趣旨である。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 組織そのものを作るときに、トイレや国立公園の有効利用の問題、そういうものを勘案して、作業部会を作りましょうという中で、強制しろとは言わないが、その意図でこの会が作られたとするならば、性善説であるならそれでいいが、それで組織が成り立つのか。今のように、強制することはできない、と言う話になったら、この会を作る必要があるのか、という話にならないか。

■事務局

- ・ 繰り返しになるが、大連協のベースとなる各団体については、今のメンバーがいらっしゃるように行政、関係団体、民間事業者の連携という形で組織されている。ただし、山岳トイレの問題のように大雪山国立公園が抱える様々な課題や検討が必要なテーマについて都度作業部会のようなものを設置し、柔軟に議論な場を設ける。全ての場に全員が参画できるというのは難しいので、ご理解いただきたい。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 理解はしないが、わかった。強制ができないから、あとは善意に頼るだけということになる。それは組織としていかなものかという気はする。

■大雪と石狩の自然を守る会 寺島氏

- ・ 加盟している構成団体は行政、民間、色々な内容、規模、人員も含めて様々である。その中で一律に会議に参加しなければならないというのは活動自体を形式的にさせ、具体的な話ができないのではと思う。作業部会については事務局から説明があったようにそれぞれの意思を活かして参加する方が、逆に具体的に動けるのではと思う。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・ 大連協は厳しい規制がかかる協議会ではないと私は理解している。大雪山に関わるということで課題を取り上げ、共有し合い、論じ合って、もっと良いものにしていこうと言うところでは一致していると思う。今までは行政機関だけで協議会が成り立っていたが、それだけでは不十分なので、民間・個人の色々な団体で関わりを持ってもらい、民の立場からもご意見をいただいて、課題点を共有し、吸収し合って良くし合っていくことで、一昨年作った官民一体の総合型協議会に変わった。浜辺さんの仰ることはごもっともだが、そこまでの規制をかけると寺島さんの仰るように参画しにくくなってしまふのでは。それぞれの都合に応じた機会に参加してもらおうという捉え方で私は良いと思っている。ご理解いただけないか。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 良い・悪い、賛成・反対という意味ではなく、議論をきちんとして、別に強制しなくても構わないと思うが、それなりに負担金を払っている。例えば、東川では糞尿は地下水に浸透している。30年、40年前には寺島さんはそのことについて強く言っていたお立場ではなかったか。そういう形の中で、こういう組織を作って、より大雪山を守り、有効活用するための組織であるはず。本心を曲げるような話で納得してくださいでは、私は納得しないが、それでもこの会が良いというのであれば私は結構。

■一般社団法人 十勝岳かみふらの観光協会 青野氏

- ・ 全部のことを全員で話せるのが理想だと思うが、そうすると作業部会ではなく、協議会となり、月に2回ずつ会議を開いたりすることになり、今回の会議もオンライン参加も多く、毎回集まるのも大変なので、トイレのことはトイレに詳しい方やトイレに意見を言いたい方が作業部会として集まって、議論し合ったことを協議会に上げて、参加できなかった方に検討いただくという形が今の形だと思う。全員で集まっても全然発言せず、ただ聞いて終わられる方も多いので、詳しいところは作業部会なりを作って、協議会に上げるのがとてもスムーズなやり方ではないかな、と私も考える。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・それが民主主義で、民主主義は手間暇がかかると言われている。こういう議論はなければならぬ。そうやってみんな少しずつ考えていこうとなる。だけど、現実には登山道が荒廃し、誰があれを整備するのか。全部、国や行政に頼って、使う方は使えばいいで、荒れ放題。最終的にはどこに負担がいくのか。だから、強制しろとは言わないが、この組織はそういうものも改善していこうという意味で作られたのだから、前向きに検討しましょう、という形であって欲しい。

■大雪と石狩の自然を守る会 寺島氏

- ・参加している団体の実情から申し上げるが、我々のような小さな団体が全ての作業部会に人員を配置して参加させるのは相当な苦勞とエネルギーが必要。現実としてできるのか、ということになりかねない。大きくは総会の決定の場があるので、それぞれの作業部会の中で決定されたことが適切なかどうか。活動を後退させていくのか、前進させていくのか。そういう議論ができるのではないかと。団体の主張を無視すると、逆に後退を生む可能性が出てくるし、そこまでは参加できないという自治体が出てくると思う。協議会は行政が運営協議をして、そこで公式の場で民間が発言できるようになってきた、ということに意義がある。そのことを民間の声が届くような場にしていく必要があると思う。機械的ではなく、具体的な場所を設置すべきでは。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・どうしてこういう議論になるのか。私は反対をしたり、結論を求めたりしているわけではない。こういう組織は何のために作ったのか。強制力は働かなくて良い。意識を醸成していくための組織であるべき。色々な都合があるから参加しなくていいじゃないか、というのが答えか？寺島さんらしくない答えだ。

■大雪と石狩の自然を守る会 寺島氏

- ・主旨がうまく伝わってないようだ。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・改めてこの組織・作業部会に限らず、大連協組織自体、母体がそんなに厳しい規制がかかったものではないと私も理解しているつもり。浜辺さんの仰っている、もっと厳しさがあっていいのではないかとすることは組織の運営上わからないわけではないが、民間の方まで広げて、大雪山を良くしていくための組織なので、お互いに認め合わないと組織の運営はまとまらない。

事務局より資料に基づき説明。事務局案のとおり、役員全員留任として承認された。

(2) 報告事項

-1) 表大雪地域/東大雪地域登山道維持管理部会からの取組状況の報告

事務局より資料に基づき報告後、表大雪地域/東大雪地域登山道部会から出席者している団体より、以下のとおりコメント。

■NPO アースウィンド 横須賀氏

- ・ 主な活動事業については、今は自然保全、温暖化情報の収集・発信。環境省の生物多様性センターのモニタリングサイト 1000 高山帯部門に登録し、大雪山の4カ所に調査地を設け、いつ花が蕾みになり、結実し、開花したか、ということも20年間データ蓄積している。参加している人たちは登山者を中心に実働25名くらいで、5月25日から9月20日までの期間に開花情報を収集したのが267件。本協議会への出席は私たちも登山道を利用し開花調査をしているため、登山道変遷や利用者の実態もよく見るため、意見を発信したいと考えている。私自身も横須賀邦子ガイド事務所をやっている。現在はコロナで休止状態だが、大手の旅行者との契約で、大人数を連れて歩くことがある。大人数での登山道の利用もアイディアがないか感じている。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・ 表大雪の維持管理部会の当番として総会に出席したが、先ほども話題になっていたが大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会が設置になることが決まった。行政、森林管理署、各山岳団体、色んな関係の方々を改めて山岳トイレの問題を話し合っていく部会ができたので、これからは私たちも頑張って、中々すぐには完結できないが、話し合うと色々できるのではと期待している。

■山樂舎 BEAR 佐久間氏

- ・ 活動の関係で、東大雪・表大雪の登山維持管理部会に、両方参加しているため、大雪山全体ということでお話しさせていただく。コロナ禍で中々思うような活動ができていないというのが現状だが、登山道荒廃はかなり進んで、例えば裾合平は凄い状況になっている。コロナが終息し、外国人の入国制限が緩和されると外国から登山者が増える可能性があり、登山道が大分ひどい状況になっていて、このままアドベンチャートラベルを進めていくと、世界に恥ずかしい状況を発信してしまうことにもなりかねないので、本当に急がなければならない。我々もスピードアップして取り組みたい。

■東大雪ガイドセンター 河田氏

- ・ 私どもは上士幌町糠平に位置しており、主に上士幌のニペソツ山、石狩岳、ウペペサンケ山等の登山道整備に携わせていただいている。ひがし大雪自然館運営協議会の事業として協力させていただいている。表大雪や東大雪のトムラウシと違い、利用者は少ない。その分、荒廃は緩やかではあるが、コロナ禍において登山者は積極的に山に来て、利用は積極的に一時より減ったが、若干右肩上がりではある。登山道荒廃も緩やかではあるが、管理者不在の未執行区間であるため、登山道整備と言ってもササ刈り・枝払い程度で、かつての登山道荒廃と言えば道が消えてしまうことだったが、道を消さない程度にしか手入れができない。未執行区間という存在をもっと皆様に広く知っていただき、だからこそなんとかしなければならぬと考えてもらいたい。表大雪地域が先進地域なため近自然工法で登山道整備の技術を確立させながら、東大雪は未執行区間が早く執行者が整う状況にしていきたい。

-2) 各構成員からの情報提供、情報交換について

上川中部森林管理署より入林者名簿について、上川総合振興局より上ホロカメックトク避難小屋の再整備工事、裾合平クラウドファンディングについて資料に基づき説明。

※説明後、各団体からその他の情報提供をいただく。

■十勝総合振興局 村上氏

- ・ クチャンベツ登山口から沼ノ原、五色岳へ向かうヤンベタツ五色岳線歩道の荒廃が進んでおり利用者の危険が懸念されているため、今年度、危険箇所解消に向けた工事を予定しており、雪解け後に現場を確認し、状況を把握した上で、山岳関係者や専門家の意見交換の場を設けた上で詳細な整備方針を検討し、十分協議して進めていきたいと考えている。関係者の方には、通行のご迷惑・ご不便をおかけするが、ご協力いただきたい。

■一般社団法人ひがしかわ観光協会 浜辺氏

- ・ 毎回こういう会議に出て疑問を感じていることがあるので、是非ご検討いただきたいが、誰がいつからこういった言い方をしているのかわからないが、今日も会場の中で飛び交っていたが、表大雪、裏大雪、東大雪、南大雪、この名称はそろそろもっとみなさんになるほどと思えるようにしていかないか。今すぐと言うわけではなく、課題として是非ご検討いただきたい。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・ 環境省や関係者の中で議論する課題だと思う。いつから、誰が、どこから、表、裏、

東と呼んでいるのかわかるか。

■大雪と石狩の自然を守る会 寺島氏

- ・はじめは表と裏くらいで、裏は響きが悪いから東大雪と呼ぶようになったと聞いている。今のように秘境ブームや自然の奥に行きたいという人は、かえって裏の方が良かったのではないかと言う人もいる。正式にいつからこういった呼ばれ方をしているのか把握していない。

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・一度そのことに関してまた検討してみると言うことに今日のところはさせてもらう。確かに、浜辺さんが仰るようにこういった区別が今あえて必要なのかどうか。この場では答えられないが、課題として納めたい。

■(株)りんゆう観光 中村氏

- ・上川町から管理運営を委託されている黒岳石室と愛山溪温泉の状況について報告する。一昨年は、コロナ禍のため黒岳石室の管理人は置かず営業をしなかったが、今年は昨年と同じ形で管理人を常駐し、定員を絞り、制限して開放をする。ビニールシートで区画を分け、利用者には週末や混雑が予想される日にはなるべく利用を避けてもらうよう周知する。物品販売も行い、去年よりは物品の種類は拡充する。また、2023年は黒岳石室100周年の節目の年を迎えるためそのグッズ販売も予定している。
- ・愛山溪温泉については、例年6月から営業をしているが、愛山溪温泉に通じる道道の温泉から1.2kmほど手前で土砂崩れがあることが発見された。全く道路が通れなくなっているわけではなく、温泉まで行き着けることができるが、また土砂崩れが広がる恐れがあるため、一般は6月まで通行止めと開発局から聞いており、温泉の営業は復旧工事が終わってからの7月からの開始を見込んでいる。

■NPO アースウィンド 青木氏

- ・本日はNPOアースウィンドとして参加しているが、普段は登山ガイドをしている。上ホロカメットク避難小屋の建て替えについて質問だが、全くテント泊ができないということだが、白雲岳避難小屋の建て替え時は救済措置として少しテントが張れたが、今回は全く張れないのか。

■上川総合振興局 中島氏

- ・小屋を全て撤去し新たに建替えるためスペースがギリギリとなるため、現段階ではテントを張るスペースは設けられないと聞いている。

■NPO アースウィンド 青木氏

- ・ 知っていてそれで張る人はいないと思うが、本州の人で大雪山グランドトラバースをする人が多いので、ここが使えないとなると最後まで到達できなかったり知らない人も来たりすると思う。ガイド仲間とよく喋るが救済措置として避難小屋の下に凹地があるが、そこでテントを張っている人もいるので、そういった場所を空けてもらえるようご検討いただきたい。

■上川総合振興局 中島氏

- ・ それについては森林管理署や環境省とも協議があり、今の段階で前向きにと言うことは言えないため、今後わかり次第お知らせする。逆にツアーの方々の日程がわかればお知らせするのでお願いしたい。

3. その他

■事務局

- ・ 今年度においても従前同様、各部会の召集にあたっては、都度事務局よりご連絡させていただき、開催時期については、関係機関と協議を行いながら日程等を調整し、必要な情報に当たっては、メーリングリスト等を活用し、情報提供を進めていく。今年度においても皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

4. 閉会

■北海道地方環境事務所 福井次長

- ・ 本来は所長が出席するところ、急遽所用のため出席できなくなったため、代理で出席をさせていただいた。本日は大変熱心なご議論をいただき、全ての案についてご承認いただき、感謝申し上げます。議論の中にもあったように、新たに「山岳トイレ等検討作業部会」が設置されることとなり、承認いただいたので、これまで課題であった件について幅広く、かつ踏み込んだ検討が可能となったことは喜ばしく、課題解決に向けた取組の推進に一層期待が持てる。また、白雲岳における協力金の取組については、今年度からその協力金を活用した実際の登山道補修にも着手される予定となっており、事務局としても一体となり進めていきたい。今年度も「大雪山国立公園ビジョン」の実現に向け、事務局としての役割をしっかりと果たしていきたい。